◎特集　どうなる「路線バス」!?

The bus on a regular route in shirakawa

路線バスの現状は厳しいものでした

昭和の時代、バスには多くの人々が乗り込み、子どもからお年寄りまでみんなの笑顔が広がっていました。ところがどうでしょう。今では、乗客がいないバスが市内を走っており、このような状況がさらに続けば、バスそのものが消えてしまうおそれもあります。

今月号では、路線バスの現状と今後について考えてみます。

◇まずはバスに乗ってみました

実際にバスに乗って、どれくらいの利用があるのか調べることにしました。午後1時20分に白河駅を出発し、15カ所の停留所を経由して八幡前に到着する白河・小田川線に乗ることにしました。時間にして20分。そこには、想像以上の厳しい現状がありました。

① 乗車・白河駅

白河駅から出発する小田川行きの福島交通バスに乗車。小田川方面に向かうバスは平日３便あります。

② 本町停留所

街には人が歩いているものの、誰もバスには乗車しません。バスは、空気のみを乗せて、街を走っていきます。

③ 横町停留所

横町停留所までで料金は170円。バスのイスは座り心地がよく、街の風景は見やすく心が弾みます。

4月16日、小田川行きのバス乗車は２人。あなたはどう思いますか。

④ 向寺停留所

向寺停留場で１人が乗車しました。運転手さんによると、ここで２、３人乗ることもあるとのことです。

⑤ 女石停留所

女石停留所を通り過ぎました。乗車した方は、仕事に行くときにいつもバスを利用しているそうです。

⑥ 弘法清水停留所

弘法清水停留所で向寺から乗車した方が降車しました。ここからは記者が一人になってしまいました。

⑦ 終点・八幡前停留所

午後１時39分、終点の八幡前停留所です。ここまで約20分。料金は460円。記者を含めると２人の乗車でした。

このままでは、路線バスがなくなってしまいます。

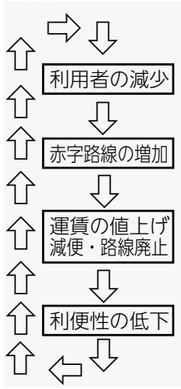
自家用自動車が普及するまでは、路線バスは私たちの移動手段として、生活に密着したものでした。

近年、少子高齢化が進むとともに自家用自動車に依存したライフスタイルが定着しており、全国的にも路線バスの利用者が減少しています。

下記のバス乗車のリポートから見ても、本市も例外ではなく、路線バスを取り巻く環境は、大変厳しい状況に陥っています。

これまで以上に利用者が減り続ければ、バス事業者は経営維持のために、やむを得ず減便や運賃値上げなどを行わなければなりません。そうなれば、一層、利用者のバス離れが進み、市からの補助金も増加するという悪循環（左図）に陥り、ますます路線バスの維持が困難な状況になります。路線バス以外に移動手段を持たない高校生や高齢者の移動に制約が出てしまうかもしれません。

悪循環のイメージ



路線バスをめぐる現状

the present situation in sirakawa

市の路線バスの現況

現在、市内には22路線の路線バスが、平日１日あたり166便、休日１日あたり88便、新白河駅や白河駅を発着点として、表郷地域・大信地域・東地域に放射状に運行されています。主に学生や高齢者などの自家用車を持たない方の通勤・通学・通院・買い物などの日常生活を支える交通手段となっています。

年々減り続ける利用者数

路線バスの利用者数は、平成16年の約130万７千人から年々減少し、平成20年には73万4千人と、４年間で約４割も減っています。

バス事業者は、少しでも多くの方々がバスを利用できるようサービスと安全の向上などに努めています。さらに、利用者の減少による収入不足を補うための経費削減策として、交差点・停車時でのエンジン停止や小型車の導入などの努力を行っています。しかし、大半の路線が赤字となるなど、経営は大変厳しい状況です。

増えているバス事業者への補助金

市では、市民生活に必要なバス路線を維持・確保するため、市内を運行する路線バスのうち白棚線を除く21の路線に補助金を交付しています。

市がバス事業者に交付している補助金の額は、年々増加し、平成20年度は7,572万円となっています。１世帯あたり約3,000円（23,000世帯で試算）も負担しているのです。